



只見町・神奈川大学COE共催 シンポジウム

# 民具は世界を結ぶ 人と自然を結ぶわざ

## Material Culture of a Mountain Village

自然と人間との対決、協調、妥協などの結果が非文字資料としての民具に凝縮されているとの観点から、民具を通して地域文化・人類文化研究の可能性について事例が提示され討論が行われた。

開催地、只見町には、国重要有形民俗文化財「会津只見の仕事着と生産用具」をはじめとする山村の生産生活用具・民具がおよそ8000点、整理・保存されている。これらの民具を、民俗学・民具学・考古学・科学技術史・文明史・人類生態学などの視点から、また、会津 日本 アジア 世界へと、ローカルからナショナル、リージョナル、グローバルな立場にまで視野を広げて検討し、併せて只見町をフィールドにして検討を進めているインターネットを活用した地域統合情報発信システム「只見インターネットエコミュージアム」(仮称)の可能性を映像で紹介した。

(佐野 賢治)



日時 2006年11月12日(日) 13:00~16:00

会場 福島県南会津郡只見町 「湯ら里」コンベンションホール

### プログラム

- 挨拶：・小沼 昇(只見町長)  
 ・福田 アジオ(神奈川大学21世紀COEプログラム拠点リーダー)
- 映像紹介：・佐野 賢治(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)  
 ・小野 博(コンテンツ株式会社代表取締役)  
 「只見インターネットエコミュージアム」システムの概要および映像紹介
- パネルディスカッション：  
 ・佐々木 長生(福島県立博物館専門学芸員・COE共同研究員)  
 「只見町の生業と民具 雪・山・川をつくる世界」  
 ・周 星(愛知大学教授)  
 「中国農具研究の視座 農業考古学から民具研究へ」  
 ・河野 通明(神奈川大学教授・COE事業推進担当者)  
 「犁の比較民具学 東アジアの民族移動」  
 ・スチュアート ヘンリ(放送大学教授)  
 「生存からサバイバル文化へ 民具に見る継承の役割」
- 総合討論 「民具は世界を結ぶ 人と自然を結ぶわざ」